

# いもち病に強く耐倒伏性に優れる 多収良食味水稻新品種「ゆみあずさ」



水田作研究領域  
**太田久稔**  
OHTA, Hisatoshi

近年、調理された米を家庭で食べる中食や外食向けの米（業務用米）の需要が高くなっています。業務用米は低価格であることが求められるため、多収で栽培コストを削減し、単位面積当たりの収益を確保することが必要となります。そのため、多収で、いもち病に強く直播栽培に適した品種への要望が高まっています。そこで、業務用米の取り組みを進めている全国農業協同組合連合会（JA全農）と共同研究を行い、いもち病に強く、耐倒伏性に優れ、多収で良食味の特性を有する水稻品種「ゆみあずさ」を育成しました。

## 《「ゆみあずさ」の特徴》

「ゆみあずさ」の出穂期、成熟期は「あきたこまち」よりやや遅く、「ひとめぼれ」よりやや早いです。稈長は「あきたこまち」、「ひとめぼれ」より短く、倒伏が少ないです。耐冷性は“やや強”、高温耐性は“やや弱”、穂発芽性は“やや易”です（表）。「あきたこまち」、「ひとめぼれ」よりもいもち病に強く、葉いもち、穂いもちとも“かなり強”です（図1、図2）。「ゆみあずさ」の標準的な肥料施用量（標肥）の移植栽培における精玄米重は「あきたこまち」より約13%多収で、標肥の直播栽培では「あきたこまち」より約9%多収です。玄米の外観品質は「あきたこまち」「ひとめぼれ」よりやや劣ります。炊飯米の食味は「あきたこまち」「ひとめぼれ」と同等です（表）。

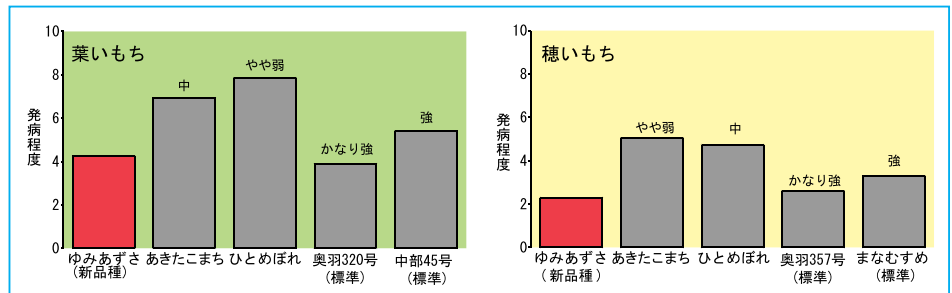


図1 「ゆみあずさ」のいもち病圃場抵抗性

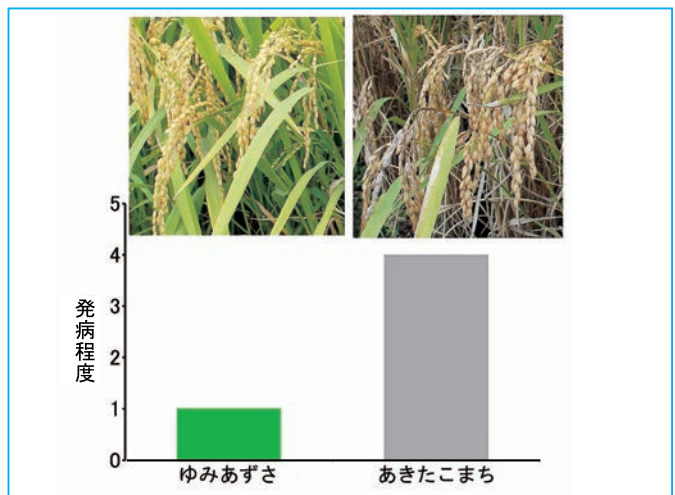


図2 現地試験 (中山間地域)における「ゆみあずさ」の穂いもち発病程度

品種名	ゆみあずさ	あきたこまち	ひとめぼれ
出穂期	8月1日	7月31日	8月5日
成熟期	9月17日	9月14日	9月18日
稈長 (cm)	71	83	85
穂長 (cm)	19.0	17.9	19.0
穂数 (本/m <sup>2</sup> )	421	471	530
耐倒伏性	強	やや弱	やや弱
倒伏程度	0.2	2.6	2.9
直播栽培の倒伏程度	0.8	4.9	3.3
耐冷性	やや強	中	強
高温耐性	やや弱	中	中
穂発芽性	やや易	やや難	難
精玄米重 (kg/10a)	743	657	694
玄米重標準比 (%)	113	100 (標準)	106
直播 精玄米重 (kg/10a)	701	643	629
栽培 玄米重標準比 (%)	109	100 (標準)	98
玄米千粒重 (g)	23.2	22.3	23.0
玄米品質	上下 (4.8)	上中 (4.2)	上中 (4.2)
食味 (官能評価)	上中 (-0.26)	上中 (-0.37)	上中 (基準0)

育成地 (秋田県大仙市)における2012年~2016年の移植標肥区 (7kg/10a)の結果。直播栽培の倒伏程度、精玄米重は2014年~2016年の直播標肥区 (7kg/10a)の結果。倒伏程度は0(無)~5(甚)の6段階、玄米品質と食味は上上~下の9段階評価。玄米品質は1(良)から9(不良)の9段階評価の平均値。食味官能評価は+3(良)から-3(不良)の7段階評価。2012, 2014, 2016年の平均値。

## 《栽培上の注意点》

高温耐性はやや弱いので、高温による玄米外観品質の低下が発生しやすい地域での作付けは避けてください。

## 《今後の予定》

秋田県、宮城県において業務用米生産を目的として作付けを予定しており、2019年に10ha、2022年に100haの普及が期待されます。